

令和3年度 第2回近江八幡市子ども・子育て会議 要録

日 時 令和4年2月9日（水）午後2時30分～5時00分
会 場 ウェブ会議（Zoom会議）（近江八幡市役所5階 第2・5委員会室）
出席委員 ◎中川千恵美委員、○小西ひとみ委員（◎：会長等、○：副会長等）
田中裕喜委員、榎本祐子委員、田中由佳委員、浅井雅 委員、
大野弘典委員、松本潤 委員、毛利芳子委員、津田幸子委員、
山本恵子委員、八木明恵委員、河村加恵委員、福永利明委員、
杉浦香 委員、村地信彦委員、久家昌代委員、
（欠席）木下堯弘委員、田中里美委員、杉本僚子委員、前出みずほ委員、
見島めぐみ委員
◎：会長等、○：副会長等

傍 聴 者 0名
議 題 （1）近江八幡市内の子育て支援団体の現状について（団体紹介）
（2）その他

議 事 詳 細

1. 開会

2. 部長あいさつ

部長：今回もオンライン開催となったが、顔をみて話し合える機会は大切と考える。市内子育てサークル・子育て支援団体にも多数ご参加いただき、感謝する。

子育て支援の推進は行政だけでは出来ず、連携して、官民協働で取り組むことが必要。支援団体が力を発揮され、更なる子育て家庭への支援の輪が、広まる機会となることを願う。第6波に突入し、県内新規陽性者数は過去最多を記録。市内幼・保・こども園、小・中学校でも学級・学年閉鎖が相次ぎ、放課後児童クラブでも臨時休所が続いている。現場では可能な限りの感染防止対策をいただき、保護者や家族の感染防止に繋がっている。大変な負担をおかけしているが、ご尽力に心より感謝申し上げます。

3回目のワクチン追加接種は、7月までに接種完了した高齢者全員に、県内でいち早く接種券を発送し進めている。一方、5歳から11歳の子どもは、3月から接種開始予定。市内5カ所での接種実施に向けて準備を進めている。

長引くコロナ禍で様々な問題が生じている。臨時給付金等の支援策を講じたが、経済的支援だけでなく、子育て中の保護者に対し、引き続き、丁寧な相談や支援対応に努めたい。委員にとっては本日が3年任期の最後の会議。第二期子・子計画の策定をはじめ、これまでのご尽力に心より感謝するとともに、本日も貴重なご意見をお願いする。また、地域社会全体で、子どもと子育て家庭を見守り、支えるまちをめざしていけるよう、変わらぬお力添えをお願いする。

3. 会長あいさつ

会長：誰もが予測しなかった感染状況となっている第6波。このように会議が開催でき、皆さんにご参加いただいたこと、また、開催に向け調整いただいた事務局に感謝する。

いま、国では身近な相談場所の在り方を非常に重視している。今回は、これまでの計画の策定や進捗状況の管理にとどまらず、子どもや保護者の声を一番近くで聞いていただいている市内の子育て支援団体の皆さんに一堂に会していただき、私たち委員や行政が、活動内容について聞く機会をもてた。どんな活動をどんな目的でされているのか、また、民間活動のネットワークづくりについてお伺いしたいと思う。

妊娠期から子育て支援、保育、学校、そして若者支援まで大きな課題がある。民間だけでなく、行政だけでもなく、お互いの役割分担や子育て支援のバトンをどのように繋いでいくのか、今後のより良い身近な相談支援について、当事者に一番近いところで活動している皆さんの思いを伺うとともに、近江八幡の一体的な支援を考えるきっかけにしていければと思う。限られた時間での活動紹介となるが、どうぞよろしくお願ひしたい。

4. 議題

(1) 近江八幡市内の子育て支援団体の現状について

○事務局より、「子育てサークル・子育て支援団体」について、概要説明。

○子育てサークル・子育て支援団体より団体紹介。

① 近江八幡子育てボランティアグループわいきゃきゃ

- ・2015年、市地域少子化対策強化事業の子育てボランティア養成講座の受講者で結成。仲間とつながりながら、「わいわいきゃっきゃつ」と楽しく地域のボランティアとして活動したいという思いで立ち上げた。
- ・コロナ前は、離乳食期の親子を対象に離乳食作りをして一緒にお昼ご飯を食べる「あかちゃん食堂」、未就園親子を対象に地域の他団体とコラボする「おやこ食堂」を実施。月1回の定例会をしながら企画や今後について考えてきた。
- ・コロナ禍でも定例会を継続し、食事に替えて工作を楽しむ「わいわいきゃっきゃつとおもちゃ箱」をスタート。お母さんと子どもたちが笑顔になれるつながりの場所を作っている。その他、地域のことや食について学ぶ「勉強会」も実施。
- ・コロナ禍で黙食や個食が推奨される時代となったが、みんなでご飯を食べる喜びを伝えられる活動が早く再開できるよう頑張っている。
- ・食事のイベントができる状況となったら、是非声をかけていただきたい。

② NPO法人 Mom 's fun

- ・2017年、お母さんたちの「あったらいいな」をカタチにするため活動開始。未就学児とその家族を対象にエコハウスで実施。子育ての情報交換や育児の相談、身近な居場所や遊び・つながりの場として「みんなの〇〇カフェ」を始めた。
- ・翌年、ひとりぼっちの子育て家庭を作らない！地域と繋がりながら大人も子どもも笑顔になれる子育てのまちを作りたい！と、NPO法人を設立。

- ・ 3つの柱で活動している。
 1. 未就学児対象の居場所づくり「子育て応援ひろば～〇〇シリーズ～」
 2. 地域と繋がりながら市の魅力を活かしたイベントを開催する「おでかけ事業」
 3. 子育て支援団体とつながる「おうみはちまん親子応援プロジェクトぱびふべぽ」を2年前に発足。
- ・ 今年1月に「子育てでつながろう！支援者ミーティング」を開催。支援者同士がつながり、支援者も応援されることが必要。子育てする人もされる人もみんなに応援団が必要。
- ・ 子育てニーズは多種多様化、悩みは複雑化している。子育てを楽しめる場所がたくさんあり、そこからお母さんたちが選んで元気になれば良い。発達や特性、年齢等で途切れない枠を超えた取組が必要。繋がりから、おもしろい取組ができればと考える。

③ こどもまるしえ

- ・ 2018年発足。近江八幡市にフリーマーケットがあったら良いなから始まった。活動テーマは、「やってみたい！をカタチに！」
- ・ お店をやってみたい！という子どもたちの気持ちから子ども店長を始め、現在は半分が子ども店長。家や学校では見せない姿を発揮してくれる。
- ・ 自主開催5回、各種イベントでのコラボ開催を5回実施したが、コロナ禍で活動がなかなかできない状況となり、活動内容を変化させていこうと現在新企画を模索中。
- ・ 箱の中に子どもたちの作品や思いや夢を詰め込んで、がんばる子どもたちを応援する「ひとはこまるしえ」を計画中。箱を置いて（委託販売）くださる場所を探している。協力いただける方がおられたら教えてほしい。
- ・ ご飯づくりをやってみたい！という子どもたちの気持ちをカタチしようと、発酵キッチン和ちゃんとのコラボイベントで、持ち帰り弁当作りを手伝う「こどもキッチン」も進めている。LINEやインスタで情報発信しているので、ご覧いただきたい。

④ 近江八幡おっぱい塾楽楽・あづちわくわくおっぱい塾

- ・ あづちおっぱい塾は発足17年目。近江八幡も同じ内容で実施しており、県内各地にも広がっている。母乳育児を頑張るお母さんが安心して続けられるように活動している。
- ・ 困ったときに赤ちゃんの様子を見たり、お母さんの気持ちに寄り添って大丈夫だよ。と的確なアドバイスやサポートを受けることは非常に大切。助産師と先輩ママが悩みの相談にのり、正しい情報や知識をみんなで学ぶ場所として続けている。
- ・ 母乳で育てると、授乳期だけでなくその後の母子の心身の健康に大変良い。妊娠期から正しい情報を得ることが大切だが、就業中の方も多く、参加してもらえないことが課題。
- ・ 社会全体でお母さんをサポートできるよう、母乳育児の魅力や正しい知識を祖父母世代にも発信していければと考えている。
- ・ 「ぱびふべぽ」等、市内支援者団体と新たにつながり、新しいヒントをもらっている。
※「ぱびふべぽ」…近江八幡の親子応援団体が集まり、子どもがいる人もいない人もつながり、笑顔の輪がひろがる、子育てを楽しめるまちにしたいと作られた親子応援プロジェクト。
- ・ 同じ悩みをもつお母さんたちが、少しでも活動に支えられて、母乳育児を続けられれば良いなと思い頑張っている。困っているお母さんがいたら是非紹介してほしい。

⑤ こねこねこ

- ・市内には子育て支援センターがたくさんあるが、コロナ禍の人数制限で利用できない日があった。こんな時だからこそ親子の居場所がほしい！と1年前に立ち上げた。
- ・人と繋がり、話し、一緒に頑張っている仲間を感じられることは、子育てにおいて非常に大事だと、子育てをして初めてわかった。
- ・いろんな力をもっているお母さんがたくさんいる。ママも輝ける場所を！という思いで月1～2回イベントを開催している。
- ・感性を育てる活動が必要と考え、マラカス作りから始め、演奏会も開催した。他団体とのコラボ企画のほか、市内のいろいろな場所で活動を実施している。
- ・市民の皆さんにもっと活動を知ってほしいし、もっと繋がりをもちたいと考える。また、赤こんバスが子育て支援センターを巡れば、移動手段のない親子が助かると考える。
- ・今後、多世代交流として、地域の力も貸りたいと考えている。サポートいただけるとうれい。

⑥ s i n c e

- ・誰もが自分自身を好きといえる社会を作りたい！という思いで、近江八幡市を中心にフリースクールや訪問型支援等をしている。名前だけでも覚えて帰ってください。
- ・月20日程度、10時半～16時頃まで実施。小1～中2のいろいろな子が、日々8～10名ほど集まっている。
- ・大切にしていることは3つ。あなたの存在はすごい。君はここに居て良いんだよ。という「被受容感」。学校に行かなくても、様々な学びがあり、生きていける自信をつけてほしいという「生きられる自信」。そして、生涯を豊かにする「人とのつながり」。そのきっかけを作りたいとフリースクールをやっている。
- ・スケジュールの特徴のひとつが体験学習。午前中に、好きと出会うきっかけを提供する。描画、料理、哲学、工作等・・・様々なイベントを用意して、子どもたちが体験する。
- ・午後は子ども時間。フリースクールをどう楽しいものにしていくか、子ども自身がより良くしていくために考える時間になっている。

⑦ ひとつぶてんとう園

- ・0才児からのフリースクールで、間もなく10年目。「産前産後のサポート」「幼児部」「小学部」のカテゴリーがあり、八幡山を中心に地域を有効に使った学びの場を作っている。
- ・小学部は不登校児童が集まり、月・火・水・金の4日間実施。月～水は幼児部と一緒に自然の中で学び、金曜は小学部の親子と一緒に参加し、自然の中で学んでいる。
- ・まちで働くいろいろな方の話を聞きながら、陶芸、政治、料理、トランスジェンダー、経済、流通、サービスなど、様々な分野のことを学ぶ。
- ・一番重要視しているのは「産前産後サポート」。助産師とのつながりは非常に重要で、産前産後期に助産師という伴走者がいることで、一人じゃないという安心感が生まれ、それが心豊かな子育てにつながると考えている。

- ・教育委員会との協議の場、学校との連携も増えてきており、小・中学部では出席認定をもらっている学校も複数ある。
- ・連続的な切れ目のない包括的なサポートの重要性から、丹波篠山市でのマイ助産師制度のような制度が近江八幡市でも進めば良いと考える。

⑧ 助産師@うたな

- ・コロナ禍で困っているお母さんが増えているのではないかと、困ったときに助産所という場所があることを知ってほしいという思いで、2021年4月、4名の助産師で活動開始。
- ・赤ちゃんのお世話や向き合い方、母乳育児、ふだんの暮らしの中で大切にしてほしいことなど、子育て中のお母さんのお母さんのような存在で守り支えたいと活動中。
- ・お母さんがリラックスしたり大切にしたいことをテーマに、月2回程度、講座を開催。コロナ禍でもお母さんが孤立しないことを第一に、人数制限や個別相談に変えて開催。
- ・助産師の存在や相談先を知らず、ネット情報だけで困っている方が多いと気づいた。対面すると一緒に考え、提案もできる。お母さん同士のつながりができ、情報のシェアができることは大切だ。
- ・今後、アクセスが良く、参加しやすい場所で開催したいと考える。
- ・妊娠中、できれば妊娠前から助産師相談ができれば、育児ストレスの軽減につながる。今後も地域や様々な職種の方と連携を取りながら、みんなで子育てしていける環境が育まれればと思うし、これからも皆さんと協力して応援していきたい。

○子育てサークル・子育て支援団体に対して質問・意見等

委員：初めて知った団体もあり、どの団体も非常に頑張っておられると感じた。わいきゃきゃとMom's funの支援メンバーは何人くらいおられるのか。

団体①：わいきゃきゃは当初20名でスタートしたが、家庭の事情等で辞められた方もいる。今は子育て中からお孫さんがいる世代の方が活動している。

Mom's funは、スタッフ3名でやっている。マルトモさんというボランティアのちょっと先行く団体に20名ほど登録されており、何か困ったときときに協力をお願いすると駆けつけてくださる。そのような体制をとっている。

会長：活動の担い手として参加いただく方にも人生の様々なステージがある。支援者側の裾野を広げることなど、スタッフの確保も大切だと感じた。

委員：素晴らしい団体が活動されていると感じた。先日、ぱびふぺぼ主催の第1回子育て支援者ミーティングに参加させてもらったが、近江八幡には、かゆいところに手が届く支援団体がたくさんあり、本当に素晴らしいと感じた。その会議では、団体紹介に加えて、ディスカッションの時間もあり、支援する側とされる側のニーズのすり合わせなど、共有の場ができていることも素晴らしいと感じた。今日の会議も市民団体に発表いただき、形式的ではない会議に少し近づいている気がする。

委員：それぞれの必要に迫られてできた団体がこれだけたくさんあることを初めて知り、とても大切なことだと思った。どの団体がいつどこで活動しているかがわかる総合案内窓口的な拠点が必要だと感じた。また、本日の発表もほとんどが女性だが、男性やお父さんがもっと参加できればと思う。

会長：各団体の活動サポートとしてどのようなことができるのかも含め、今後の子ども・子育て会議でも検討していきたいと思う。本日はありがとうございました。

(子育て支援団体 退室)

(2) その他

○生涯学習課より、放課後子ども教室にかかる放課後子ども総合プランについて説明。

○子ども支援課より、放課後児童クラブの来年度の利用申込状況と今後の方向性について説明。

委員：放課後子ども教室について、放課後児童クラブの児童が、放課後子ども教室を利用する場合、両施設が離れていると通うことが難しい。この場合、どこに責任があるのか。

学校から遠い民設クラブの児童も利用しやすい手だてがあれば教えてほしい。

放課後児童クラブの令和4年度の利用希望者増加については、保育の無償化に伴い想定できたことであり、対応の遅れではないか。事業者としては、安心して利用いただけるよう企業努力もしている。令和5年度の放課後児童クラブの新設に向けて、しっかりと推し進めていただくようお願いしたい。

生涯学習課：すべての小学校で一律同様に放課後子ども教室を利用できることが理想であるが、建物の位置関係等、状況が様々である。安心安全な条件等、ひとつずつ解決しながら実施に向けて進めている。地域によって取組内容や対象規模も様々である。それらの調査もしながら、委員ご指摘の心配内容も含めて検討し、最終的には12校開催を目指すところである。

子ども支援課：無償化の制度導入については、子・子計画策定時にもわかっていたが、どの程度の影響が出るのかを参酌することが難しい状況であった。来年度早々に令和5年度、6年度に入学する家庭を対象にアンケートを実施し、対応していきたいと考えている。

○委員の3年任期の最終回にあたり、子ども・子育て委員からひと言ずつ

委員：9年間関わらせていただいた。当初は、保育の量の確保についてを中心に検討してきたが、量だけでなく質のことをもっと議論したかった。それが残念である。子育て支援団体から個性的で創意工夫ある発表をいただいたが、このようなことがもっと早くできていたらと感じた。この会議を通して、まちに対する思いや子どもたちに対する思いを深く感じさせてもらった。

委員：毎回、各委員から忌憚のない意見が出るが、良くしていくために事務局に知っていただきたいことを訴えている気がする。近江八幡市の子育て環境をみんなで良くしていこうということが伝わってくる。私自身、現場で何が起こっているのかを知る良い機会となった。委員をさせていただき感謝している。

委員：ひとつぶてんとう園に3歳の息子と通っており、助産院で出産もした。この委員に手を挙げたのも、助産師が減ってきている今、自分に何ができるのかと考えたのが大きなきっかけだった。市内にいろいろな支援があることを委員として関わるなかでたくさん知ることができた。今後の自分の生活のなかでどのような動きができるのか、さらに模索していきたい。

- 委員：3年の任期はあっという間だった。何もわからないなかで参加したが、3人の子育てで感じることを吐き出すとともに、子育てに関わっている方と意見交換でき、いろいろなことを勉強させていただいた。コロナ禍で、委員の皆さんと会えないままに終わってしまうのが残念だが、また、どこかでお世話になることがあればよろしくお願ひしたい。
- 委員：前任者から引き継いでわずか1年。ボリュームのある計画を読み出すところから始め、掘む間もなく終わってしまうというのが率直な今の気持ち。4人の子がいるが、委員の皆さんや行政、いろいろな方の話を聞くなかで、直接的、間接的に、子どもたちをサポートしてもらっていると感じる。地域で声を掛け合い、子どものことを気にしてもらええるまちが一番と考える。
- 委員：今年から委員となり、コロナ禍でウェブ会議が2回だけだったのが残念だった。子育て支援団体の話は、たいへん素晴らしいと思った。私自身も子どもが小さいときにこのような事業に参加したことがあるがとても楽しい。たくさんの方に子育て支援団体のことを知ってもらい、参加してほしいと感じた。
- 委員：いろいろな立場の方の意見や取組を聞くことができ、行政の取組みや事業も、会議を通して知ることができ、学びが多かった。多くの事業があるが、やはり、日常の地域のなかでの自然な声かけや関わりのなかで、子どもたちを見守り支えていくことが大切であると考える。子育て世代を暖かい目で見守っていく地域の役割が、今後とても大切になると改めて感じた。多くの子育て支援団体が一生懸命取り組んでいる。市も就学前保育の充実について、さらに力を発揮し取組を進めていっていただきたい。
- 委員：市の委託を受けてファミサポ事業を進めているが、子育てサポーターの高齢化が進んでいる。コロナ禍で事業を継続するなかで、人の力が子育て支援には大きな要素だと改めて感じた。子育て支援団体が頑張っている現役ママたちが、今後、市全体の子育て支援に尽力いただけるよう育っていただけたらと強く感じた。
- 委員：いろいろな立場の方と情報共有し勉強させてもらえて良かった。3年任期で委員が変わることにより、いろいろな方の視点が入り、いろいろな方面からの意見が出せるので、とても良いと思う。
- 委員：今日は、子育て支援団体にも繋げていただき感謝している。
市社会福祉協議会では、新型コロナウイルス感染症により自宅療養している方に対し、緊急食糧等支援事業「困ったときはお互いさま便」を開始した。電話をいただくと、地域の民生委員さんが非接触非対面で食料を置いて帰る事業で、3月まで利用料無料で実施する。近くにお困りの方がおられたら、是非教えてあげてほしい。
- 委員：今日参加された子育て支援団体は、まさに子育て中のお母さんたちであり、必要に感じて作られたものであった。もっと広く周知し、必要としている人に知ってもらえたらと思う。子ども・子育て会議に長年参加させてもらっているが、委員同士もお茶を飲みながら互いにざっくばらんに話せる機会があればと思う。
- 委員：何期かにわたり参加しているが、これまでは保育所の待機児童や、学童の受入れ対応の議論が多く、幅広い層に向けての課題解決に重きを置かれていた。今後は、虐待防止や発達の課題、不登校家庭など、少数だが本当に困っている方への支援体制が整うよう解決していけたらと思う。コロナ禍で人とのつながりが薄れている今、行政だけでなく、子育て支援を頑張られている団体や市民と共に、一緒に考えていく必要性を強く感じる。

委員：知らなかった情報をたくさんいただき、個人的にも組織としても参考になった。ここに集まっているメンバー以外の方にもどんどん広がり、この会議を起点に、赤ちゃんから子育てする方々までが、人生を通して、もっと遊び楽しめるような市や地域となればと考える。

委員：いろいろなことを知る機会となった。子育て支援団体の活動も知らないことが多く、もっと周知できれば良いと感じた。困っている保護者がいれば、是非、紹介していきたい。先ほど言われた保育の質の議論については、就学前施設に課せられた課題であり、現場の職員が質を高められるように頑張っていかなければならないと感じている。

会長：それぞれのご意見をいただきありがとうございました。この3年間は、第2期計画の策定とそれ以降の進捗管理で、いろいろな課題を察知して事務局も検討を進めているところ。一体的な支援の展開は行政だけで出来るわけではない。行政として、いろいろな声を真摯に受け止め、官民のより良い繋がり方、子どもたちの安心安全を大事にしながら、それぞれの皆さんと次年度以降、検討を深めていくことが必要だと感じた。

また、今日は子育て支援団体の活動や思いを伺う機会を設けることができ、非常に貴重な時間を過ごすことができた。各委員からの貴重な意見もありがとうございました。

事務局：会長、ありがとうございました。本日は参加いただけなかったが、市内には登録いただいている子育て支援団体がまだ他にもある。委員の皆さんからも意見があったように、点々を線にして、線を面にして、今後もどんどんと広がっていくことを望むとともに、行政の手が届かない部分の支援をいただいているので、お互いが協力し合い、今後さらに広げていきたいと考える。

5. 閉会挨拶

副会長：長時間大変おつかれさまでした。子育て支援団体は多くの方に知っていただくことが大切であり、支援団体の皆さんには、これからもますますがんばってほしいと思う。

仕事上、幼・保・小学校等と関わることが多いが、子育て力のなさが気になる保護者がいる。子どものために保護者を育てていくことも大切だと考える。今後、何らかの形で親育てにも力を入れていただければと思う。本日はありがとうございました。